

演題:「脳梗塞の診断で入院になった 57 歳男性のまさかの結末」

喜界徳洲会病院 初期研修医
宇治徳洲会病院二年次 畠田 宣宏

呂律困難主訴に受診した誤診した一症例を経験したので報告する。

症例 : 57 歳 男性

もともと ADL 自立であり仕事もしている男性。発症の 10 日前には内科疾患で定期受診をしていた。書字障害・呂律困難で発症し、頭部 MRI 所見をもって左被殻ラクナ梗塞の診断で入院。脳梗塞の治療開始となった。入院 6 日目から失語・小脳失調症状・嚥下障害・ミカ
ロス・右不全麻痺など脳梗塞では説明できない症状が出現・・・。

その結論とは…。